

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 13 日現在

機関番号：14301
研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2008～2012
課題番号：20242017
研究課題名（和文） 倉富勇三郎日記研究—IT 応用新研究支援ツールの導入による全文翻刻と注釈の作成
研究課題名（英文） The Study of Kuratomi Yuzaburo' s Diary; Making a full text transcription with some annotations by a new ITC research tool.
研究代表者：
永井 和 (NAGAI KAZU)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：40127113

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近現代史 倉富勇三郎

1. 研究計画の概要

(1) 『原敬日記』に匹敵する日本近代政治史研究上の第一級史料である倉富勇三郎日記（原本は国立国会図書館憲政資料室所蔵）を全文翻刻し、注釈と解説をほどこすこと、それによって難解な手書き文字で書かれているため、ごく限られた少数の研究者たちだけしか利用できなかったこの貴重な歴史資料を、学界のみならず、日本国民さらには世界中の共有財産とすること、これが本プロジェクトの目的である。

(2) 翻刻した日記を学術図書として出版することが第2の目的である。

(3) 倉富日記の翻刻作業を進めるにあたって、京都大学文学研究科の情報・史料学研究室が開発を進めている文献学・史料学研究用の新しいツール SMART-GS を使用する。SMART-GS はデジタル画像化された手書き文字資料の翻刻と解析のための新たな ITC 研究支援ツールである。これを利用して倉富日記の翻刻をおこない、このツールが実用にたえるものであることを検証するとともに、手書き文書の読解を必須のものとする歴史研究において、新たな技法の確立にむけて実験をおこなうことが、本プロジェクトの第3の目的である。

(4) 翻刻した倉富日記を史料として用い、1920年代から1930年代の日本政治・外交史および精神史にかかわる、いくつかの重要なテーマについて研究をおこなう。それが第3の目的である。そのテーマとしては、倉富日記にみる宮中問題の研究、倉富日記にみる天皇の政治権力と権威の研究、倉富日記にみる政党政治期の司法官僚と政治の研究、倉富日記にみる中国問題・中国認識の研究、倉富日記にみる朝鮮植民地支配の研究等があげられる。

2. 研究の進捗状況

(1) 研究の主目的である倉富日記の翻刻についての現在までの進捗状況は、第一次翻刻については1925年分までが完了している。

校閲と注釈付については1921年分が完了し、1922年分がもうすぐ終了する。最初想定していたよりも翻刻と校閲に時間がかかることが判明した。翻刻・校閲・注釈作業が予定よりもかなり遅れているのは認めざるをえない。この作業の遅れの一因は、日記の出版刊行のための原稿作成、校正作業にかなりの時間をとられるためである。出版となると、たんに翻刻の作成ではすまず、いろいろと技術上の問題が発生し、それに対応するたえに、研究代表者が多くの時間を費やさざるをえず、そのために全体の作業の流れが停滞するという現象が出ている。

(2) 日記の出版については2010年度に1919年と1920年分をまとめて『倉富勇三郎日記』第1巻を国書刊行会から刊行することができた。この刊行は、学術史料の刊行としてはまれにみる注目を浴び、少なからぬ新聞、雑誌において注目すべき文化事業として紹介された。2011年度刊行の第2巻についてはほぼ原稿が完成しており、予定どおり2011年11月には刊行できる。

(3) SMART-GS の利用については、システムの改良（ネットワーク機能の付加）に時間がかかり、実際に SMART-GS のネットワーク機能を使っての協働翻刻システムが軌道にのったのは、2010年度からであった。いちおう順調に進んでいるが、東日本大震災のために情報学研究所のネットワークサーバが利用できなくなったために、現在協働翻刻システムの運用効率がダウンしている。これは予想外のことであった。

(4) 翻刻と出版事業の遅れにより、いちば

ん影響を受けたのが、倉富日記を史料として各分担者がおこなう研究の分野であった。研究代表者が予定していた宮中研究の成果は完成がくれ、論文発表は2011年度にずれこんでしまった。これは倉富日記を材料に1920年の「皇族の降下に関する施行準則」の制定過程をはじめて明らかにした学術論文である。研究成果としていちばん多くをあげたのは、Lee Sung yupによる李太王毒殺説についての研究、それに連続する李太王の諡号、建廟、造陵についての研究である。これは韓国においても大いに注目された。2009年に倉富日記掲載の李太王毒殺の噂についての記事に関連して、研究代表者の永井とLeeは韓国放送の取材を受け、同年8月15日の記念番組で放送された。

最初の計画では想定していなかったが、本プロジェクトで行った倉富家所蔵資料の調査により未見の新史料をいくつか発掘できた。とくに倉富の朝鮮総督府勤務時代の写真がまとまって出てきたのは、大きな成果である。この所蔵写真の解析をあらたな研究課題として付け加えることにした。

3. 現在までの達成度

現在までの達成度を振り返ってみると、
②おおむね順調に進展していると評価している。

たしかに当初の計画に比べると、翻刻事業と個別研究の遅れは明らかだが、これは翻刻と出版との間にそれほどの労力を要さないとした当初の計画に問題があったのであり、その認識不足が実際の事業の進行によって是正されたとみるべきであろう。本プロジェクトの終了までには、日記の刊行は第3巻までにとどまるが、しかし本プロジェクトの実施により、翻刻と刊行事業の基盤が確固たるものになったのはまちがいのない事実であり、本プロジェクト終了後も刊行は間違いなく継続され第9巻の刊行まで、時間はかかっても、かならず完了できると信じている。

4. 今後の研究の推進方策

今後は毎年2年分1巻ずつ倉富日記を刊行していく。そのための体制はすでにできあがっており、本プロジェクトの終了までに第5巻までの翻刻原稿ができあがっている予定である。さらに本プロジェクトでつくられた体制を基盤に本プロジェクト終了後も刊行事情を継続していく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①桂川光正「関東州阿片令制定をめぐる一考察」

『大阪産業大学人間環境論集』査読無、9号、2010年。1-22頁

②林晋・永井和・宮崎泉「文献研究と情報技術—史学・古典学の現場から—」『人工知能学会誌』査読有、25巻1号、2010年、24-31頁

③Lee Sung yup「李太王(高宗)毒殺説の検討」『二十世紀研究』査読有、10号、2009年、1-42頁

④小山俊樹「関東大震災後の都市計画と政治」『大正イマジュリ』査読有、4号、2009年、28-37頁

[学会発表] (計6件)

①Lee Sung yup「滅びし王朝の君主を如何に称すべきか：李太王(高宗)の諡号・陵号・建碑問題」朝鮮学会第61回大会、2010年10月3日、天理市・天理大学

②Lee Sung yup「高宗「毒殺説」のメタヒストリー」延世大学BK21(「社会的包摂と排除」事業団・「アジア的政治政治学」)共同コロキウム、2010年9月13日、韓国ソウル市・延世大学

③林晋・永井和・寺沢憲吾「文献資料研究用ツールSMART-GSと画像文字検索エンジン」文化とコンピューティング国際会議、2010年2月22、23日、京都市・京都大学

④Lee Sung yup「高宗太皇帝／李太王の諡号・陵号・陵碑問題」漢陽大学校東アジア文化ネットワーク・京都大学朝鮮韓国学教育研究ネットワーク共催日韓文化交流史合同セミナー、2009年2月11日、京都市・京都大学

[図書] (計3件)

①倉富勇三郎日記研究会編『倉富勇三郎日記』第1巻、2010年、930頁、国書刊行会

②永井和「田中義一内閣期の朝鮮総督府官制改訂問題と倉富勇三郎」松田利彦・やまだあつし編『日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚』、2009年、497-561頁、思文閣出版

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

とくになし。